

2021年3月14日 聖餐式説教

聖書の中で私達が特に興味を持つものに奇跡物語があります。病気の人が癒されたり、僅かな食物で大勢の人が食事をしたり、悲しんでいる人が慰められたり、非常に多くの奇跡物語が記されており、これらはすべて主イエスが天国の力を示されたものですが、私達はつい、その業の大きさの故に驚いてしまうのですが、その驚きから少し離れて、主イエスが奇跡によって単に人々を驚かせたのではなく、実は何を伝えようとされていたのかを考えることは極めて重要であります。

本日の福音書はその大勢の人達が五つのパンと二匹の魚で満腹したという、いわゆる五千人の給食の話でした。この物語は有名でありまして四つの福音書全部に記されている極めて珍しい物語であり、しかもこの物語が重要であることを示すため、福音書によっては二回書かれているものもあります。

そして伝統的に本日の大齋節第四主日には、この五千人の給食の話を学ぶことになっております。大齋節第四主日はちょうど大齋節の中間に当たります。厳しい修練の時である大齋節ですから、私達の取り組みもそれなりに厳しく、またエネルギーも使わねばならない期節ですから、丁度中間にあたって一休みしよう、食べ物を少し我慢してこの大齋節を過ごしている人は、今日はそれを少し一休みして美味しいものでも食べて、大齋節の後半に臨んでいこう。ということなのです。こういうことから今日を大齋の中日ということがあります。大齋節も半分を過ぎて、今までの自分を振り返り、リフレッシュしてまた十分な鍛練が出来なかった人は、後半を過ごす心構えを新たにスタートする日とされているのです。今日はそのことをよく覚えて一日を過ごし、後半の大齋節に臨んでいきたいものと思います。

さて、ヨハネが伝える五千人の給食の特徴は、五つのパンと二匹の魚を子供が持っていたという点です。子供は自分のお弁当を持っていたのでしょ。人々は大勢主イエスのもとに集まってきました。食事のことも何もかも忘れてついてきてしまったのでした。その様子を見て子供が弟子たちを通して主イエスに自分のお弁当を差しだしたというのです。これが極めて重要なこととなります。ヨハネは、もし子供がお弁当を差しださなかったとしたら、主イエスは奇跡を行うことが出来なかった、この子供が自分の食料を差しだした、自分が全部一人で食べたとしても誰からも非難されるわけではないのに、自分の持っている

すべてを差しだしたことで、この子供の愛の行為によって主イエスが奇跡を行うことが出来た。人々を十分に満足させることが出来たというのです。この奇跡は、この子供の持っていた愛が、主イエスを通して全ての人を満足させたと伝えているのです。そして私達自信も常にとわれていると教えています。私達の信仰生活とは、いついかなるときも主なる神からの決断を求められている過程であるということなのです。そのときそのときの決断が主なる神から求められており、私達が選んでいく決断が正しいときには、主イエスを通して人間では出来ない大きな業が、そして奇跡が起きる、すなわち主なる神の業が全うされるということなのです。五つのパンと二匹の魚が五千人の人々を満足させるというのは、常識では全く考えられないことです。それがこの子供の心によって成し遂げられた。それが本日の福音書の中心部分であり、私達の愛が主なる神のよって広げられるとき、素晴らしい喜びが与えられるということなのです。

もう一つ重要な点は、主イエスを見て人々が王にしようとしたので、主は静かなところに退かれたということです。主イエスは大きな業をなさったとき、よく一人で静かなところに退かれるのが常でした。それは人々が誤解をしないため、主イエスの使命が十分に行われるためでした。人々はこうした奇跡を行う主イエスを見て、自分達の頭にしようとしたのです。そしてこうした力を自分達だけに独占しようとしたのでした。何とも浅はかな人間の心です。主は天国の存在を人々にしらせるため、主なる神を信じるようになるため奇跡を行ったのでした。そして十字架の受難を控えた主イエスにとって、人々が王にしようとしたのは大きな誘惑です。こうした人達を自分に付けて十字架の受難を避けることができれば… こうした誘惑とも主は闘わねばなりません。本日の福音書から私達は、パンと魚を差しだした子供の愛と、王にしようとした人々の自分のことしか考えない心の両方を学びます。私達は主がどちらを臨んでおられるかを知っておりますが、果たして実際はどうか、よく考えてみたいと思います。そして主は、私達のもっておる小さな愛でさえも、すべても人を満たす存在としてくださることを示してくださいました。これは私達にとりましておおきな励ましでありましょう。

愛の修練を言われるこの大斎節を、主の御心を仰ぎながら、後半を過ぎて参りましょう。